

和紙 だより

越前和紙への提言



■トウーラ・モイラネン
版画家。1959年、フィンランド生まれ。
カンカーンパー美術学校版画学部卒業後、ユバス
キュラ大学人文学部卒業、芸術教育、哲学と美術
史で修士号取得。

ユバスキュラで、版画、美術史、芸術教育に携わる。
1987年来日し初めて日本の紙漉に出会う。以来、
和紙の研究を続けながら、京都にてデッサン塾を
主宰し、各地で展覧会を開催。和紙や木版画を海
外に紹介する本をフィンランド語、英語で出版し
ている。著書「The Art and Craft of Woodblock
Printmaking」 「Kirjansidonnain Opas--手製本入
門」など。

■トウーラ・モイラネンさん
(木版画家)

「本物の和紙を直接購入できる
ルートが欲しい」

哲学の道の際にある閑静なアトリエでお
話を伺う。



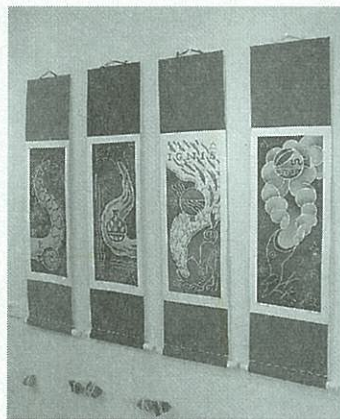
銀閣寺に近く、白川の川縁に
面した静かなアトリエ

●和紙との出会い

日本に初めて来たのは一九八七年です。
埼玉の小川町で初めて日本の紙漉を見ま
した。その後、八十九年に再来日し、こ
こ京都に居を構え十五年ほど経ちました。
私は十七才から木版画をやっています。
二十三才の頃日本の浮世絵木版画と出会
って、その技法を勉強のためにまねして
みようと思つて外国の本を調べたり、水
彩絵の具を工夫したりしましたが、一番
最初に突き当たった壁が、紙でした。
その当時は、フィンランドでそういった
ことを詳細に書いてある本もなかったの
です。私の町で売っている手漉きの紙も、
本物の天然素材かどうかは解りませんで
した。それでも、紙の切れ端を切り刻ん
で、自分で水に溶かして、何とか自分で
漉いてみたのですが、刷ってみると全部

ダメでした。

卒業論文のテーマに日本の現代木版画を
選んだのですが、何しろ資料がないので
日本に行き、本格的に木版画のことを勉
強したいと思つて三週間の旅をし、小川
町に連れて行つていただいたのです。

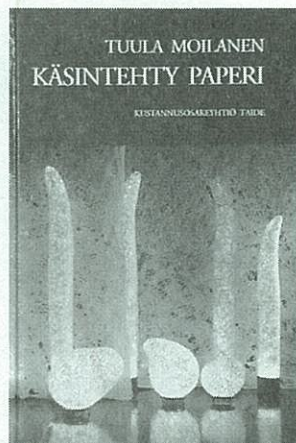


モイラネンさんの掛け軸に仕立てられた
版画作品。非常に色鮮やかで美しい。

●本格的な紙の勉強

小川町で紙漉を見たときは、本当に興奮
しました。ああ、こんな風に漉っていた
のか、こんなトロトロしたものを(トロ
ロアオイ)混ぜるのか、と驚きの連続で
した。東京芸大など日本の芸術大学も随
分回つて、紙と木版画の資料を集めまし
た。京都精華大学の黒崎彰先生にも取材
をお願いしましたが、そこで八九年から
日本の大学で初めて和紙の授業が持たれ
た。その時のオープニングには、岩野平三郎
さんもお見えで「打雲」を漉いてくださ
ったのを覚えています。
八九年の春から黒崎彰先生の元で二年間、
紙漉と日本の木版画を勉強しました。木
版画から入った興味が、和紙へと発展し
ていつて紙漉の本をフィンランドで出版

することにもなったのです。



自書「手製本入門」の一部。日本の紙漉の方法、歴史が紹介されている。

●海外から直接購入できるルート

フィンランドで和紙を売っているのは大
きな町だけですが、ドイツ経由で入つて
くるようです。手に入るまでの間に問屋
が何軒も介在するので、産地が解らなく
なります。ただコウゾが入っていれば「コ
ウゾ紙」と名前を付けているだけで、怪
しげなものもあるのです。私はどこの紙
か産地で判断すればある程度解るので、
英語で産地の名前、出荷した組合の名前、
材料やその紙にまつわる豆知識のような
ものを付けて欲しいのです。北欧では版
画が盛んで、版画教室も多く、アーティ



ストも多いのですが、問屋を何軒も経ると、北欧は消費税が二十八%ですので、紙も大変高くなります。大きなロットでできるような和紙組合などがあると大変助かります。

組合などに輸出入の知識のある英語のできる方が一人でもいらつしやると、可能ではないかと考えています。和紙は今や国際品で海外には大勢ファンがいますので、少しずつでもいいからそういうこと始めていただきたいですね。高い紙になると、普通の人には買えないので、安い紙しか手に入らなくなり日本の和紙の



トルペインティングの作品

ように高い質の紙を知る人も少なくなります。力のあるアーティストも、質の悪い紙を使っているのは、総体として作品の質が落ちます。芸術家にとっては深刻な問題なのです。

● レンタル紙漉き工房

外国人のために、紙の体験ツアーなども企画して欲しいです。観光だけではなく、一週間くらい滞在して作品を作れるような場所も産地に欲しいですね。お仕

事の邪魔をするのは申し訳ないので、英語のわかる紙漉インストラクターが一人いて、受け入れ専門の施設で和紙を学べるような所です。

また、私などは自分の好きな紙を漉ける場所が欲しいので、レンタル紙漉工房のようなものは作れませんか？紙を煮る場所、漉く場所などがあり、道具も揃っていて、漉いた紙に試し刷りをしてみたいことができると最高ですね。こういう施設があると、プロや外国人に限らず国内の学生なども口コミで伝わって広がると思うのですが・・・

トウワラの作品は多色刷りの木版画が中心。紙が縮んだり伸びたりすると版画の「見当」が合わなくなるので、コウゾ紙100%の越前和紙がお気に入りだそうだ。作品には、宇宙、神話、物語などをテーマとした神秘的な雰囲気が出て漂っている。自分の生きていく上での問いへの答えが、世界の様々な民族が培ってきた豊かな物語の中にあるような気がするからだという。



個展会場で作品を前に立つモイラネンさん

■大阪・からかみ屋 天王寺区北川堀
和紙にこだわる専門家のための

インテリア・ショールーム
<http://www.karakamiya.co.jp>



チーフの阿部由美子さん

大阪・からかみ屋を経営するのは、株式会社キシモト(年商十八億円)。インテリアの内装材料を扱う古くからの問屋である。「からかみ屋」という屋号は、全国五カ所で展開しているショールーム及び販売されている商品のブランド名の総称。チーフの阿部由美子さんにお話を伺う。

● プロ向けのショールームとして出発

「ふすまのショールーム：からかみ屋」に参加している問屋は、東京、名古屋、大阪、新潟、福岡。やる気のあるオーナーが集まり、ネットワーク型のブランドを立ち上げた。大阪は十二、三年前になる。当時内装材料の問屋がこういうショールームを持つのは大変希有なことであったという。商品やブランドの戦略等の運営は、東京・からかみ屋の田中健助商店が現在行っており、五カ所で売られる

商品は全て同じものである。最初は、インテリアに関わるプロ向けのショールームとして開始し、現在では、和のテイストが解る設計事務所、建具屋さん、インテリアデザイナーやインテリアコーディネーター、プランナー、ハウスメーカーなどに、よく知られるようになった。ショールームではふすまが自動でせり出してくるように工夫され、襖紙や椽の様々な表情を見ることが出来る。



電動で見本の襖が出てきて、実際の使用状況に近いイメージで商品の選択が出来る

● 一般客が増える傾向

「最近では、雑誌などの情報の方が早く、ホームページができたお陰で、一般のお客様がよく見えるようになりました。先日、若い女性の方が自分の部屋のふすまに素敵な引き手をコーディネートしたいとおっしゃって、二日間もお見えになり、悩んだ末に気に入った引き手を買って帰られました。」

阿部さん自身も、元は大手ハウスメーカーのアドバイザーという経験を持つ。今、家を買う客は昔に比べ年齢層が若くなっ

ており、三十代がひとつの客層となつて
いる。生まれたときから洋風の住環境に
住んでいる彼らはマンションにシンプル
で心なごむ和のテイストを取り入れた
が、いいものを見る場所、建築雑誌など
で紹介されるセンスのいいものを実際
に見る所がなかったと感想をもらすとい
う。もうひとつの客層は、少し上の世代で、
古いものもよく知っており、家の新築や
改築を機に本物が欲しいという客だ。こ
ういった客層が、建築家やインテリアア
ダイナーに「からかみ屋」にあつたあれ
が欲しいと要望を伝える。

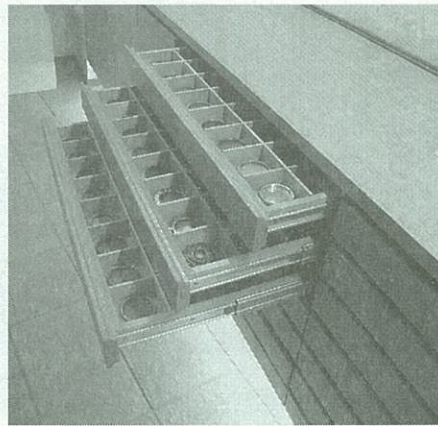


銀泥で描かれた襖

● 主流の襖紙とコーディネート商品

襖紙が主流の当店だが、高額の美術系の
襖紙から、モダンな住宅にも合うシンプ
ルな紙まで品揃えが豊富な上、襖紙や引
き手のバラエティも豊富だ。金銀砂子、
箔押し、雲英摺り、漆吹き、揉み紙など
の加工を施した和紙は、越前和紙を始め、
産地の特質を活かすものを使用している。
本鳥の子紙に金泥、銀泥を使用した肉筆
画の襖などは、風格ある一遍の美術作品
だ。襖紙は、漆、竹、白木、春慶塗など
素材と加工法によってこれまた様々なコ

ーデザインが楽しめる。引き手の見本
は、実に二百五十種類。中にはアクセサ
リーにでも転用したくなるような手仕事
の妙を活かしたものが、整然と引き出し
の中に整理されている。

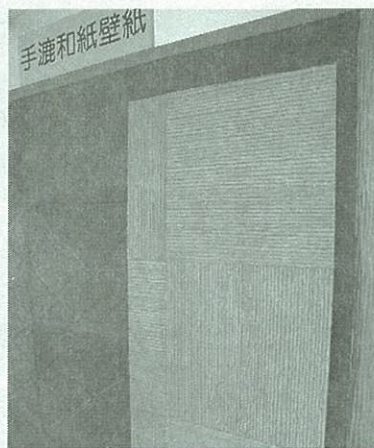


引き手などのサンプルは引き出しに整然と並べられており、選びやすい

● 新商品の和紙の壁紙が好評

昨年開発した手漉き和紙の壁紙シリーズ
「からかみ屋・ウォール」の反応がいい。
和紙の壁紙は呼吸し調湿作用もある上、
自然な風合いが好まれるが、施工がしに
くかった。たとえばKW・10シリーズは、
50センチ角の厚手の和紙ユニット（四枚
一万円）となつており、一ユニットで一
平米の壁に貼ることができる。厚手なの
で袋張りはいらず、ユニット化してある
ため、素人にも簡単に張ることができる。
「KWシリーズ」や「LaLa」というシ
リーズは、楮、三椏、雁皮等の靱皮繊維
100%の紙の凹凸の表面に、天然素材の柿
渋、藍、山桃、青墨や十七色の顔料を上
に載せている。見る角度によって表情が
変わり、組み合わせによってタペストリ
ーのような作品に仕上げられることもできる。

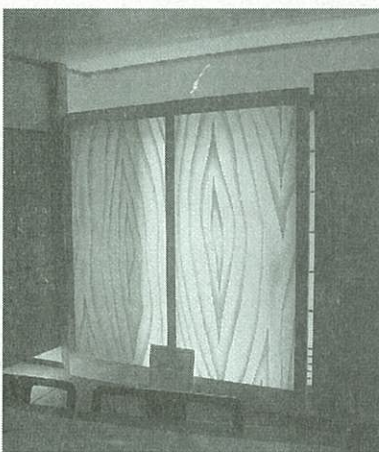
その他、檀紙の壁紙、薄紙のシリーズも
用途に応じて使い分けられることができる。
退色テストも行っており、扱いやすさや
サイズ、値段とのバランスがよく考えら
れた商品だ。納期は三〜四週間程度。



新規開発した壁紙「LaLa」シリーズ

● 産地への要望

「産地には本場に歴史もあり様々な技法
がありますので、その技術を活かして面
白い紙の提案を行って欲しいですね。最
近はスクリーンや照明器具、光の透け感
を楽しみたいような利用の仕方も多くなつて
きていますので、モダンな空間にも合う
本物の和紙の良さを伝えるようなものを
期待しています。」

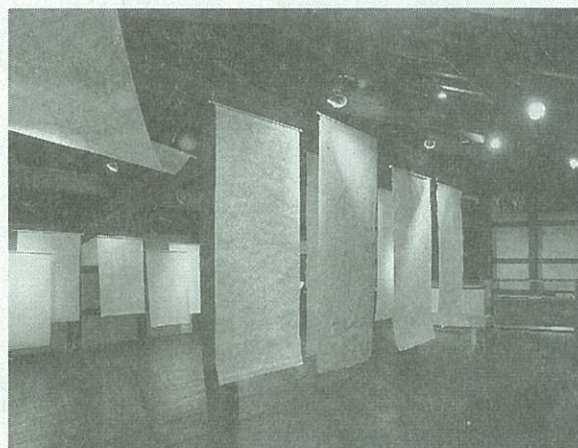


すけ感が人気のモダンな障子

■ イベントレポート

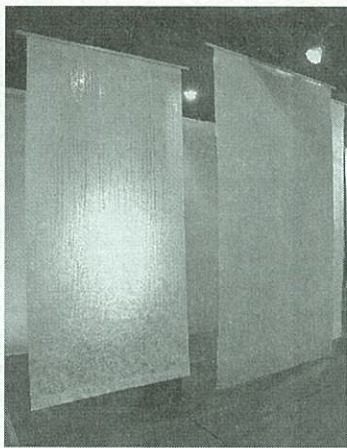
■ 素の紙展

会場 今立町 卯立の工芸館

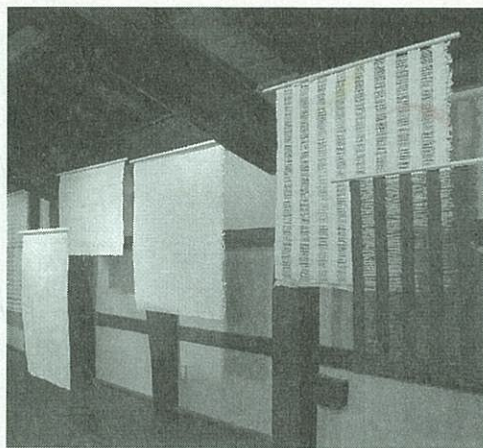


会場全景

二〇〇五年三月三十日〜四月十八日、福
井県今立町の卯立の工芸館にて「素の紙
展」が開催されました。この展覧会は、
健康的な自然素材、和紙を現代的なマン
ションやモダン住宅などに積極的に活か
して頂きたいと企画したもので、紙漉職
人10人、28種類の和紙が展示されまし
た。
展示された和紙は、住宅の壁紙や襖に使
える大判のもの、照明やタペストリーな
どインテリア用品に用いるもの、小間紙
や印刷に対応したもの、美術の複製に使
われるものなど、多彩な越前の紙をあえ
て素材のまま展示し、紙のもつ迫力や繊
細さを感じとっていただけるものとなり
ました。



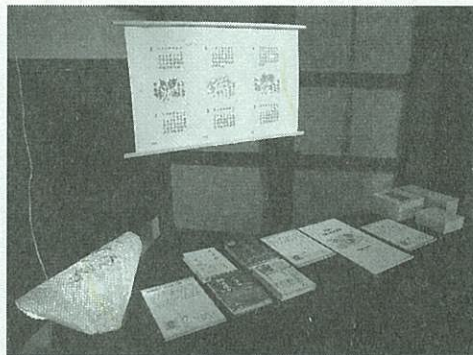
大判の和紙も多数展示された



インテリアにそのまま活用できる和紙の展示

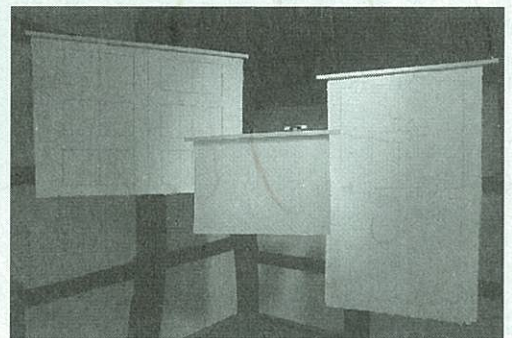
期間中には多数の来場者が訪れ、越前和紙の質の高さや長い伝統に培われた多様な技術、新しいデザインスタイルへの試みに興味を持たれたようです。
「思いかけず美しい紙に出会いました。」
「感動しました。また来たいです。」などの感想から、「販売している所が知りたい。」
「個人で購入できるのか？」など購入に対する要望、さらには「強度を知りたい。」
「耐候性はどの程度ありますか？」など、様々な用途への対応を想定した専門的な質問もいただきました。

近年、和紙を扱って住宅やモノ造りをする職人が減っており、一般ユーザーが本物の和紙にふれる機会は余りありませんが、展示会を訪れた人の中には、今すぐにも住宅やインテリア、身近な小物に取り入れたいと考えている人が多いことには驚かされました。
和紙の需要は減ってきていると言われていますが、それは「需要がない」からで



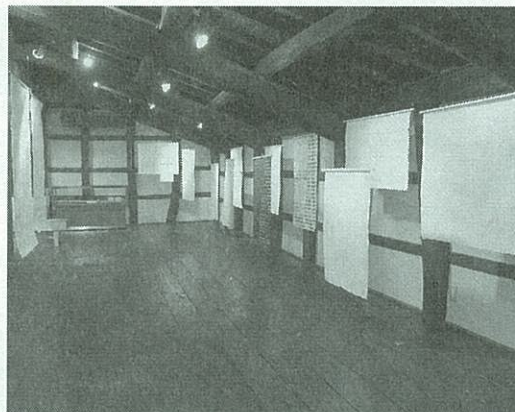
書籍やカレンダーなど印刷に耐える和紙や金箔を漉き混んでシェードが自立する照明器具

手で定型に簡単にちぎれる和紙と、版画用の高級和紙使う人に合わせて、厚みなどを調節する



参加漉き場（五十音順）五十嵐製紙、石川製紙、岩野市兵衛製紙所、岩野平三郎製紙所、梅田和紙、沖水彩画用紙製造所、長田製紙所、滝製紙所、山次製紙所、やなせ和紙（すべて、今立の紙漉場）
問い合わせは、福井県和紙工業協同組合まで。

会場となった卯立の工芸館
期間中は多数のご来場を頂いた



卯立の工芸館2階で展示が行われた

はなく「ユーザーが和紙を知らない」「専門家が和紙の扱い方を知らない」という事に起因することも多く、産地では今後様々な視点で本物の和紙の魅力を発信し、和紙と触れ合える機会を作っていくつもりです。

情報欄

● イベント情報

■ 福井県伝統工芸士会連合会展（福井県の伝統工芸士展）

時：2005年6月16日（木）～28日（火）
場所：東京池袋 全国伝統的工芸品センター

■ 子供を育てる伝統工芸品展

時：2005年6月30日（木）～7月12日（火）
場所：東京池袋 全国伝統的工芸品センター

■ 紙漉き体験（愛・地球博会場内）

時：2005年7月22日（金）～26日（火）
場所：愛・地球博（愛知万博）中部千年共生村

■ 伝統工芸士と遊ぼう VIII

時：2005年8月11日（木）～23日（火）
場所：東京池袋 全国伝統的工芸品センター

編集後記

「素の紙展」に多数のご来場をありがとうございました。様々なご意見や叱咤激励を頂き、実際に紙を使われる方とのコミュニケーションの大切さを実感しました。（ほ）